

烈震に襲われて心が折れかかるが 特色のある作業で活路を切り開く



岡崎社長と愛犬のミリ

宮城県仙台市の翼は、「車屋っばくない車屋にしよう」との思いから、翼という一般の整備工場とは一線を画した会社名を名づけた。現在の社長は岡崎俊勝氏だが、創業者は取締役の今部裕子氏である。

整備工場の創業者が女性というのは極めて稀だ。今部取締役はディーラーに勤めた後、整備工場に就職し経理事務を担当していたが、その整備工場の廃業をきっかけに、自ら創業することを決意した。もともと、整備士の資格を持っているわけではない女性が整備工場を開業しようというのだから、不動産業者からは信用されず、土地を借りるのも苦労したが、仙台駅から車で15分の仙台工業団地内で創業したのが2005年11月である。その後、09年12月に1

kmほど離れた現在地に移転した。

同地は海岸から直線で4kmの距離があるが、東日本大震災で発生した未曾有の大津波は内陸部へと襲いかかり、同社にも後わずかまで迫ったところで、高速度道路（仙台東部道路）が防波堤の役割を果たして津波を堰き止め被害を免れた。

また、地震による人的被害はなく、設備機器や預かり車両の損害も比較的軽かったため、事務所と工場内を片づければ事業を再開できる目途は立っていた。その片づけがほぼ終了して、「さあ、頑張ろう」と意気込んでいた矢先に、最大級の余震（4月7日、震度6強）に襲われた。3月11日の本震は横揺れが長時間続いたが、この時は激しい縦揺れに見舞われ、部品や工具を収納していた工場の棚が倒れ、顧客の車にもキズがついた。事務所内でもあらゆる物が床に落ち、OA機器はすべて壊れた。震災のショックが少しずつ和らぎ、頑張ろうと張り切っていた時に大きな被害に遭い、「会社をやめようか」と今部取締役の心は折れかかったが、身一つで創業して苦労しながらやってきたことを思い起こし、心を奮い立たせて事業を再開することにした。気持ちの整理がつき、落ち着きを取り戻し



たのは、震災から1年が経過した頃だった。

安さによる顧客創りから 特色ある作業での集客に転換

今部取締役は顧客基盤がない状態で創業したので、当初は以前勤めていたディーラーからの飯金塗装の外注と、周辺への手作りチラシのポスティングで顧客創りを始めた。単にチラシを撒いただけでは効果は見込めないで、夏冬タイヤの交換時期に「4本交換で1千円！」という破格の料金を打ち出した。